

沖縄現地報告

山下律子

<本体工事 10 年の辺野古>

政府が辺野古の新基地建設の埋め立て工事に着手してから丁度 10 年目となる 10 月 29 日、この日も私たちはいつものように工事用ゲート前に座り込んだ。雨の日も酷暑の日も休むことなく座り込みは続けられているが、10 年もの歳月が流れ「埋め立ては殆ど終わってしまったのだろう」と思われている方も見受けられる。確かに辺野古側の埋め立ては殆ど完了しているが、大浦湾側の埋め立ては未だ 0.8% に止まり、全体では 16.4% しか終わっていない。(2025.10 月時点)

大浦湾側の埋め立てが進んでいないのは、大浦湾の海底に広がる軟弱地盤の埋め立てが困難を極めているからである。2023 年、政府は、沖縄県民の民意を無視し代執行により工事を強行した。軟弱地盤を改良するために大浦湾に 7 万 1 千本の杭(内 4 万 7 千本は砂杭)を打ちこむ計画で、今年の 1 月から砂杭を打ち込む作業を開始した。大浦湾には一時 6 隻もの砂杭を打ち込む SCP 船が集められていたが、6 月に台風対策、機器のメンテナンスを理由に大浦湾を離れ(10 月初旬に 1 隻戻ってきたがまた離脱)、今は一隻もない。もう 5 か月間も地盤改良工事を中断している。打設された砂杭は、9 月末時点で 2900 本にとどまっている。8 カ月で 2900 本だから 1 カ月当りにすると 362.5 本となり、このペースで行くと 4 万 7 千本の砂杭の打設だけで約 10 年かかる計算になる。(全杭、7 万 1 千本の打設には約 16 年かかる)更に、軟弱地盤は水面下 90m まで続いているが、現在の日本の作業船では水深 70m までしか施工できず無理がある。北上田毅氏は「SCP 船が大浦湾に戻ってこないのは、海面下 70m まで



砂杭を打ち込んでも杭下に未改良部分が残し、砂杭に強度が期待できないなど技術的な問題が生じているのではないかと推測している。埋め立て土砂の調達にも問題

が山積していて、「完成まで 12 年」など到底無理で、完成は見通せない状況である。総工費も膨大に跳ね上がっている。完成が危ぶまれる辺野古新基地建設、私たちの血税を使って海を埋め立て、自然を破壊している辺野古新基地建設を 1 日も早く止めたい！



<安和栈橋死傷事故から 1 年後

～被害者が加害者に～>

昨年 6 月 28 日、安和栈橋出口で、辺野古への埋め立て土砂を搬入しているダンプカーに抗議活動中の O さんと警備員が轢かれ、警備員が死亡、O さんも命が危ぶまれる大怪我を負うという大事故が発生した。しかし防衛局は、事故直後から「この事故は、抗議者が基地建設作業を妨害したことにより起きた」との偽情報を流し、県警も、事故後 1 年経ってもダンプの運転手への取り調べも、事故関係者への事情聴取もしてこなかった。O さんが事故当時の映像の開示を求めても、沖縄防衛局は「映像は不存在だ」として開示しなかった。

それが、事故から 1 年 1 カ月後の 7 月 28 日に、県警は、O さんに警備員を死亡させた重過失致死罪の被疑者(加害者)として出頭を求め、2 回事情聴取をした。交通事故なのだからまずは事故を起こした運転手、ダンプを誘導していた警備員の責任が問われるはずだ。さらに、工事を加速させるために無理な運転を強いた沖縄防衛局や、受注業者にも責任があるはずだ。彼らの責任を問わず、何故ダンプに轢かれた被害者の O さんを加害者とするのか！政府・防衛局は、O さんを加害者に仕立てることにより、牛歩による抗議行動に業務妨害・犯罪だというレッテルを貼って抗議行動を抑え込み、工事の加速を図ろうとしている。O さんを加害者にすることは絶対に許されない！

(2025.11.14 記)